

ノーヒット・ノーラン達成、初タイトル獲得 中日ドラゴンズ・大野雄大投手

中日ドラゴンズの大野雄大投手が今季、ノーヒット・ノーランを達成、さらに最優秀防御率のタイトルを獲得するなどマウンドで力強く躍動しました。

0勝からの復活

9月14日のナゴヤドーム。史上81人目のノーヒット・ノーランを達成し、満面の笑みで跳びはねて喜ぶ大野投手の姿がありました。

「今年ためならプロとして先は長くないな、と覚悟して臨んだシーズンでした」と振り返ります。2年目の2012年にプロ初勝利を挙げると、13〜15年の3年連続で2桁勝利し、チームのエース格に。だが、18年は0勝。「精神的な弱さを見つめ直し、先発として試合を作ることに徹しました」と話します。最終的に、先発ローテーションを1年間守り、170イニング



©中日ドラゴンズ

ノーヒットノーランを達成し、大野奨太捕手(左)と抱き合って喜ぶ大野雄大投手=9月14日、ナゴヤドーム

4歳の長女に普段より1時間半早く起こされたそうです。「いつもと違うデーゲームの朝を過ごしたので、まさかそんな日に達成するとは……。捕手は好リードで野手もよく守ってくれました」と大野投手。最後の打球は鋭いサードライナーで、「かっこいい喜び方



大野 雄大 (おおの ゆうだい)

1988年京都市出身。2007年4月に佛教大学社会学部現代社会学科入学。2011年にドラフト1位で中日ドラゴンズに入団。今季(2019年)は、史上81人目のノーヒットノーランを達成。防御率2.58で初のタイトルとなる最優秀防御率を獲得。また11月に行われた国際大会「プレミア12」では3年ぶりに待ジャパン選出。主に中継ぎとして活躍し、10年ぶりの世界一に貢献した。

を投げるといふ開幕前に掲げた目標もクリア。自身初タイトルとなる最優秀防御率を手に入れました。

ノーヒット・ノーラン当日は、

「1カ月間、毎日必死だったが、思い描いた形になった。世界一メンバーになれたことが何よりうれしい」と声を弾ませます。

さらなる高みへ。日本一と世界一

19年は国際大会「第2回プレミア12」の代表にも選ばれ、日本の10年ぶりの世界一に貢献しました。「1カ月間、毎日必死だったが、思い描いた形になった。世界一メンバーになれたことが何よりうれしい」と声を弾ませます。

世界一の歓喜を回顧しつつ、視線は既に来季を向いています。「総合的に見て、今シーズンはキャリ

の準備ができなかったんです」と苦笑します。

「アハイ」。それでも慢心せず、「何年もこれを続けることが大事。休んでいる暇はありません」。プレミア12で優勝の喜びを知った左腕は、「この喜びをドラゴンズのチームメイトと味わいたい。それが一番大事」と日本一を来季の目標に掲げます。夏には東京五輪もあり、「めっちゃくちゃ代表に選ばれたら」と、再びの世界一に意欲を見せます。

後輩へメッセージ

4年間は長いようで、すごく短いです。僕は「プロ野球選手になりたい」という夢・目標があり、そこへ向かって突き進んだ日々でした。まだ夢や目標が決まっていない人も、焦らずじっくり決めてほしいです。いろいろな人と出会い、いろいろなことに挑戦し、会話して自分の道を切り開いてほしいと思います。



©中日ドラゴンズ